

大学に行ってみた。  
模擬授業が結構面白くて[2つ進む]

面倒なので行かず  
レポートだけ書く



8月

夏休みの課題はオープンキャンパスに  
行ってレポートを書くこと

1年生からオープンキャンパスに行く意味あるの?  
保護者のモヤモヤ

### 社会人になった 自分をイメージ!

総合的な学習の時間に  
職業人インタビュー。  
働くイメージから  
文理選択を考える

CHECK  
POINT  
2

期末テストのこと頭いっぱい。  
文理選択のことまで考えられず  
[1回休み]



いろいろ話をしていたら、  
保護者の勧める学校と、  
自分が興味あることや  
今の成績とのギャップで悩む

将来の就職を考えたら、今どきは  
やっぱり理系が有利よね。偏差値  
だって高いほうがいいんでしょう?

### 保護者面談

「進学」で意見は一致  
[2つ進む]

あつという間に  
最初の決断

# わが子の 「文理選択」

そのときあなたは?



高校に入学してほっとしたのもつかの間。多くの学校では、2年生から文系・理系のコースに分かれるための進路指導がスタートします。どんなことが起こるのか、すろく風にシミュレーションしてみましょう。

取材・文／清水由佳 イラスト／尾崎仁美

6月

### まず仕事&学問分野と 自分を知る!

ロングホームルームで  
仕事&学問の分野調べ。  
適性検査なども受けて  
自分のことも知る。  
モチベーションアップ!

CHECK  
POINT  
1

新入学 ガイダンス  
先輩たちの進路の話を聞いて、  
未来はバラ色気分で、  
ワクワク

え! こんなにすぐ  
に進路調査があるの!?

1回目 進路調査  
進学か就職かなど、  
大まかな進路への希望調査。  
とりあえず「進学」で  
[次へ進む]

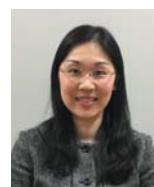
初めての中間テストでドキドキ。  
文理選択は[1回休み]

多くの学校では、一般的に、将来を見据えて文系・理系どちらに進むかを決める「文理選択」を1年生で行う必要に迫られます。1年生の秋～冬にかけてどちらに進みたいかを決定し、2年生からはその選択に沿って学ぶ教科や科目が変わってきます。学校によっては、文理選択ではなく、科目選択という言い方をされることもあります。安易に決めることが、「文理選択」なのです。そのため、入学後間もなく進路希望調査を行ったり、将来を具体的に漠然としている未来像ができるだけ具体的にしていくため、仕事や学問

多くの学校では、一般的に、将来を見据えて文系・理系どちらに進むかを決める「文理選択」を1年生で行う必要に迫られます。1年生の秋～冬にかけてどちらに進みたいかを決定し、2年生からはその選択に沿って学ぶ教科や科目が変わってきます。学校によっては、文理選択ではなく、科目選択という言い方をされることもあります。安易に決めることがあります。将来「進学したい学部・学科の受験に必要な科目を学んでない!」などという後悔もしかねません。実際が「文理選択」なのです。そのため、入学後間もなく進路希望調査を行ったり、将来を具体的に漠然としている未来像ができるだけ具体的にしていくため、仕事や学問

「文理選択」  
将来を考える第一歩

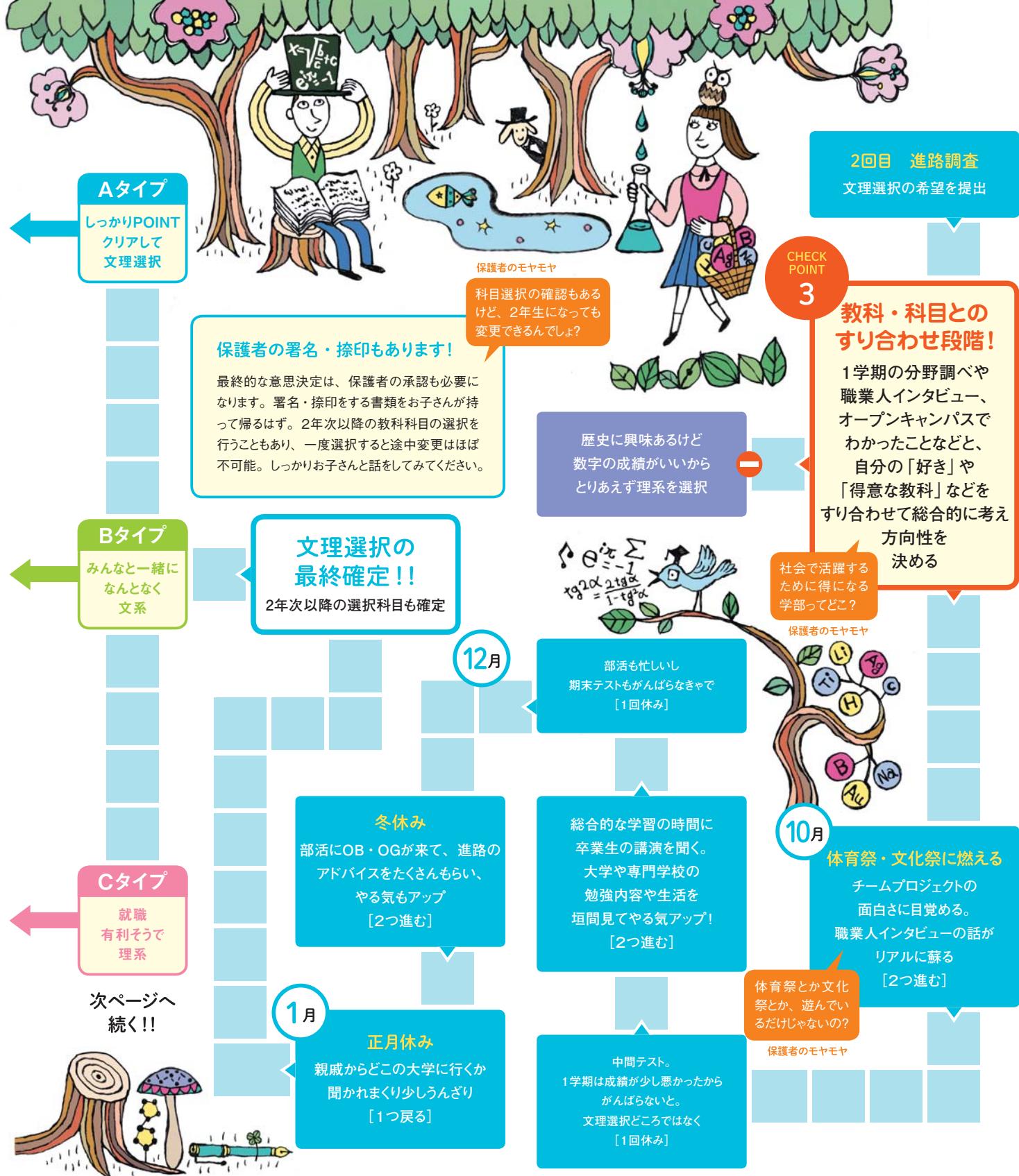
取材協力



千葉県日出学園中学校高校  
進路指導部部長  
鈴島ゆきの先生



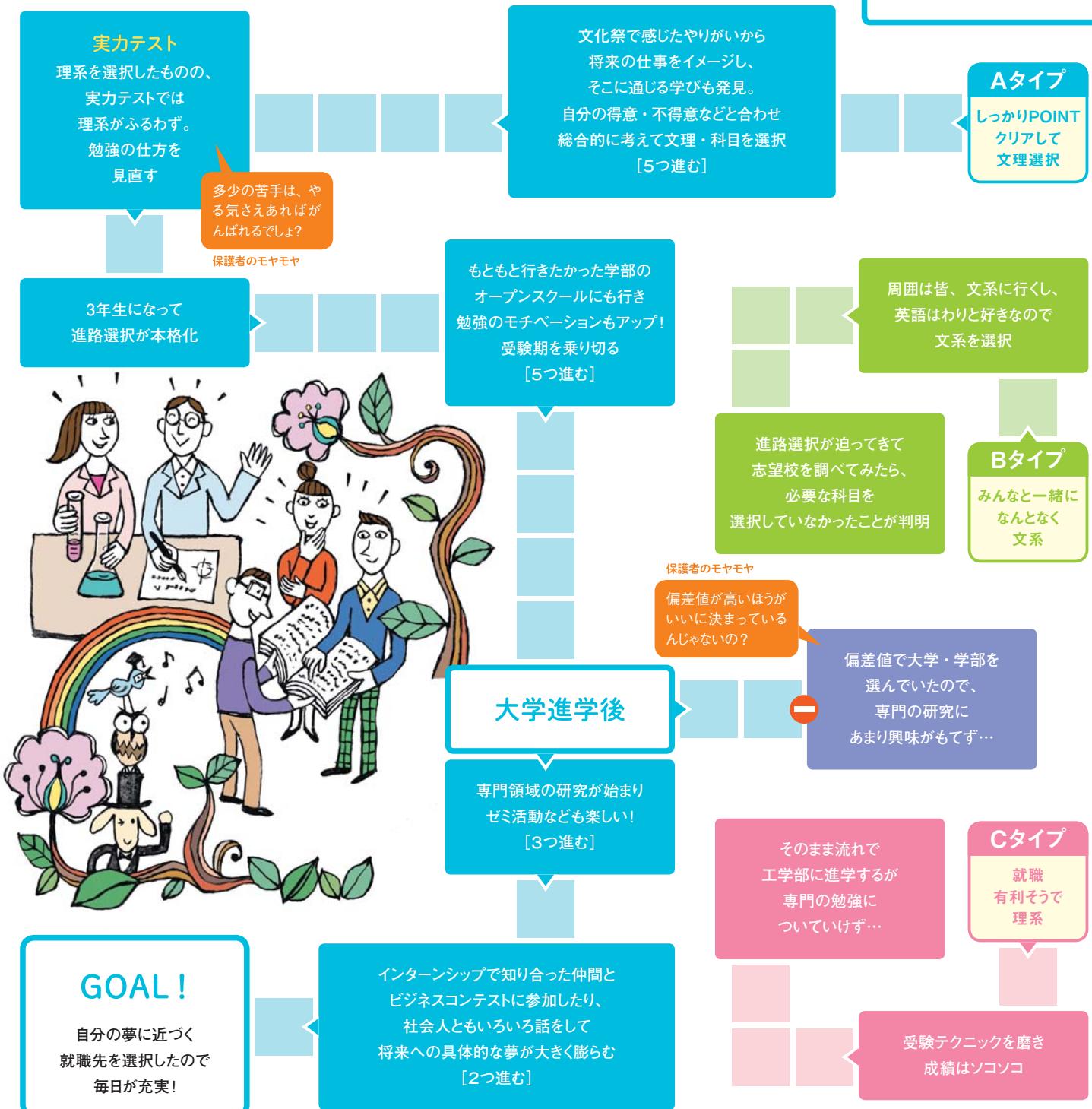
埼玉県・浦和高校  
進路指導主事  
萩原紹夫先生



領域の調べ学習を行ったり、社会人の講演などから刺激を受けたり。休みには、大学などのオープンキャンパスに行くことも奨励されたりします。埼玉県でトップクラスの進学実績を誇る浦和高校でも、以前は秋以降に行っていた学問領域の調べ学習を、5月から始めたといいます。「時期、『とりあえず理系』と安易に進んでしまう生徒が増えたため、もっと将来をしっかりと考へ始める機会を早めに設けようと思ったんです。自分の興味のある・なしに関係なく、グループごとに与えられた学問領域に関して、何を学び、どのような将来につながるのかを調べ、クラスの中で発表します。それによって、さまざまな「学び」を知ることができ、視野を広げることができます。並行して、適性診断などによって、自分の特性や得意・不得意なども客観的に考へ始めていきます」(進路指導主任・荻原紹夫先生)

そのような取り組みを始めたことで、理系に偏っていたコース選択が、文理それぞれに平均して分かれるなど、子どもたちの選択が柔軟になってきたといいます。「選択」というと、とかくどちらが損か得か、いかに効率的に絞るなどを考えがちですが、最初は視野を広げ、さまざまな情報の中から自分の道を考えていけることが重要なようです。

## 文理選択の続き



安易な「一」つちがいい」は  
子どもたちを惑わせる!?

な偏差値の高い大学へ…という価値観を、日頃の会話の中で出しがちなんです。それに子どもはひきずられ自分の将来や可能性を広げる思考がしつらくなることがあります。「いたいことをぐつぐつられて、見守ることも大事ですね」(荻原先生)

また、一步踏み出し挑戦しようとする子どもを引き留めてしまうひと言も。中高貫校で穏やかな校風の日出学園中学校・高校の進路指導部部長・鈴島ゆきの先生は、保護者の過度な心配を懸念されます。



ニュースを見ていて、  
それが社会にどう影響を  
与えているかなど、  
議論してみたりする。

⇒社会への興味の喚起。「自分の意見をもつ」ことへの第一歩。

選んできた進路について

「どういういきさつで選んだか」を  
じっくり聴き、共感してあげる。

⇒本人の意思の尊重。次の行動への勇気づけ。



テレビや新聞の  
社会人インタビューなどを見ていて、  
「この人の  
こういう仕事って、  
こんなことに役立って  
いるんだね」と

一緒に考えてみたりする。

⇒いろいろな仕事や社会へ目を向けるきっかけづくりに。



＼あなたはどっち？／

## 保護者の 神対応 vs 塩対応

日頃の何気ない行動が、こんな影響を!? あなたはどっち?



「数学が少しくらい得意なだけじゃ、  
理系では通用しない」など、  
どうせ無理だと強調してしまう。

⇒本人の可能性を閉ざしていくことに。



「歴史を勉強して、  
いったいどんな仕事につくの?  
どうやって食べていくつもり?」  
など、未来を否定してしまう。

⇒「好き」「勉強していく楽しい」という気持ちの尊重も、一方で大事。



文系・理系で割り切れない  
学部・学問領域も増えている

「文学部」「法学部」「工学部」など、  
従来の文系・理系でわかりやすく判斷できる学問領域がある一方で、「環境情報学部」「人間環境学部」など、  
文系か理系かわかりづらかったり、  
実際の勉強も文理にまたがるものも増えています。「経済学部」や「心理学部」などでも、統計や実験など理系的要素が必要になります。

「本人が“建築をやりたい”と言っている場合なども、じゃあ理系だねと簡単に決めつけることはできません。どういうイメージをもっているのか丁寧に聞いていくと、実はデザイン的なことをイメージしている場合もあります。そうすると理系ではなく文系を選択したほうがいいことも。子どもたちの学部・学科調べは、そんな実際と自分のイメージを調整していくために不可欠です」(釣島先生)

「今どきの社会では理系のほうが就職に有利。  
いざとなったら文系受験だってできるんだから、  
とりあえず理系にしたら」と言ってしまう。

⇒理系にいながら文系受験は、実はかなり大変。必修科目的数学や物理、化学など、本人の興味や適性と合わないと非常に苦労することに。就職も有利とは簡単に言いきれません。

理選択は、できないことを捨てるのではなく、将来に向けて何をどうがんばりたい必要があるかを考える行為と考えていますから」(釣島先生)  
子どもたちの可能性を信じ、応援していく。文理選択では、そんな関わり方が重要なのかもしれません。

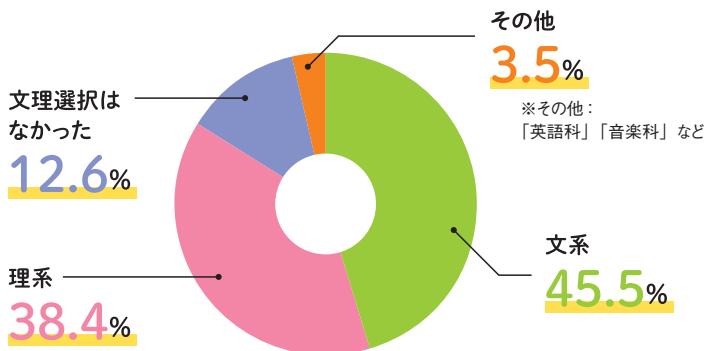


「『一般受験をがんばるなんてうちの子には無理なので、どこか推薦で入るところに』とおっしゃつたり『あなたには理系はとても無理』と反対されることがあります。確かに、やりたい気持ちだけでは通用しない厳しい現実もあるので、私たちも文理選択に向けて、どれだけ本人が覚悟しているか何度も面談を繰り返します。

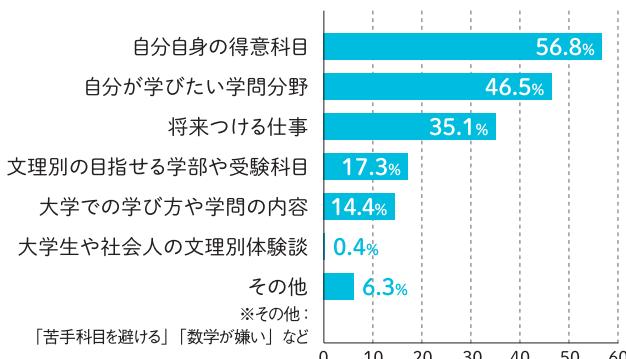
# 文理選択 どうだった?

大学生・専門学校生・浪人生にwebでアンケートを実施  
(有効回答者数310名)。実施期間:2017年12月20日  
~22日(調査協力:マクロミル)

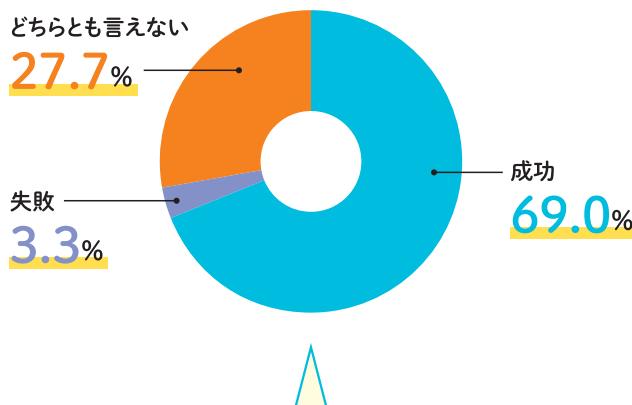
## ● あなたは高校での文理選択の際、どちらを選択しましたか?



## ● 文理選択をする際、何を参考にしましたか? (複数回答)



## ● あなたの文理選択は成功? 失敗?



## 文理選択

もっとこうすればよかった!

「何事にも興味をもち、挑戦してみるべきだった。  
将来について考え始めるのが少し遅かったような気がする」  
(岡山県・女子・経済学部)

「人の言ふことを鵜呑みにせずに、ちゃんと自分で決めることが、  
その進路でどんな勉強をするのか調べてから文理選択すべき」  
(栃木県・女子・教育学部)

「決めるとき、何となくで決めてしまったので、  
もっと考えて決めればよかった」  
(宮城県・男子・農学部)

「自分は理系科目が苦手で文系を選んだけど、  
センター試験では理系科目も受けなくてはいけない。  
得意・不得意だけで文理選択するのはよくないと思う」  
(大阪府・男子・商学部)

### “成功派”

「今、大学がすごく楽しいから」(兵庫県・女子・文学部)  
「大学での授業に高校の内容が活かされているから」(高知県・女子・農学部)  
「結果、大学で学びたいことを学べている」(東京都・男子・情報学部)  
「実際に法律や政治を勉強してみると、思った以上に面白かった」(京都府・男子・法学部)

### “失敗派”

「進路先が決まっていなくて得意科目が生物と英語だったので理系にしたけど、2年にな  
って化学や数学Bが出てきたらちんぶんかんぶんになって、むしろ文系が得意科目に。  
文系受験に変更した」(栃木県・女子・教育学部)

### “どちらとも言えない派”

「結局、行きたい大学すべてが文理どちらでもよかったから」  
(北海道・女子・社会福祉学部)  
「どちらかというとバランス型で理系を選択。今、専門的な勉強は楽しいこともあるが、  
とても大変で苦労しているから」(東京都・男子・理学部)

一緒にゆっくり話を  
聞いてあげる時間を!

学生のアンケートを見てみても、  
「好きなことを選んで楽しかった」と  
いう人もいれば、「好きな科目だから  
選んだけど、実際は相当難しくなっ  
て今が大変で辛い」という人もいま  
す。将来の仕事を見据えて選択し  
たものの、結果「どちらの選択でも  
別に大学受験には関係なかった」と  
いう人もいます。いろいろ調べて選ん  
だはずでも、やはり「失敗だった」と  
思う人も少数ですがいます。それだ  
け文理選択は、難しい選択です。  
「最近の子どもたちは、何よりも失  
敗したくない」という思いが強いと思  
います。だからこそ、本人が一番考え  
ていて、悩んでいる。周囲の大人が  
できることは、日々ちょっとずつそん  
な思いを聞いてあげて、一歩踏み出  
すために、大丈夫だよ」と後押しをし  
てあげることではないでしょうか」  
(荻原先生)と、勇気の後押しを勧  
めます。同様に、鈴島先生も、「ど  
んな選択をしたとしても、大変なこ  
とはあるし、耐えなければいけない  
こともあります。そういうときに、  
自分で決めたと覚悟していることが  
何よりも大事です。そのための問  
いかけや、本人の考えを深めるために  
話して向き合う場をつくってあげ  
ください」とアドバイスしています。